

「王妃の帰還」
 柚木麻子／著 実業之日本社 (YFユ)

中2の^{のりこ}範子は、クラスの中で最も目立たないポジションのグループに所属し、毎日^{あんたい}を安泰に過ごしていた。ところが、ある事件をきっかけに「王妃」と心の中で呼んでいたクラスのトップグループのリーダーだった滝沢さんが彼女のグループへやってきてしまう。そこから平和な日々が崩れだす。



「かのこちゃんとマドレーヌ夫人」
 万城目学／著 筑摩書房 (YFマ)

かのこちゃんは小学1年生の女の子。家には、年寄いた柴犬の玄三郎と外国語を話することができる猫のマドレーヌ夫人がいます。そんなかのこちゃんの驚きと発見にあふれる日常が描かれます。



「石を抱くエイリアン」
 濱野京子／著 偕成社 (YFハ)

^{やおとめいちこ}八乙女市子は、茨城県に住む成績も運動神経もいたって普通の平凡な女子中学生。受験生になった市子は志望校をなかなか決められずに焦りを感じていたが、無事に卒業式を迎え、受験した高校にも合格をした。しかし、2011年3月11日に東日本大震災が起きてしまう。



「ぼくらの先生！」
 はやみね かおる／著 講談社 (YFハ)

わたしは、かつて小学校の先生をしていた。退職をしてから10年がたつが、ふとしたきっかけで教師時代の謎めいた出来事を思い出す。当時は話さなかったことを妻に話してみると…。



「3つ教えて走りだせ」
 エリック・ベッサン／著 あすなろ書房 (Y953ミ)

アントワーヌとトニーは、数日間も走り続けた。ただ3つ教えて走り出したふたりには、目的があったわけではなく、すぐにやめるつもりだった。しかし、走り続ける間にそれぞれの抱える問題に向き合う。そして、ふたりは見つけ出したゴールへ向かっていく。



「ぼくたちの骨」
 榎崎 茜／著 講談社 (YFカ)

陸上部の^{せんり}千里は、走りたいのに足を痛めているため部活を休んでいた。そんなとき、同級生の^{はると}春人から新聞部に誘われ、手伝うことになる。彼女が取材することになったのは、もうすぐ休園する「あがたの森動物園」。そこで肥満体のチーターの^{はくせい}剥製を見つける。生きていたころのように走れそうにもないチーターに千里は自分を重ねる。



「チポロ」
 菅野雪虫／著 講談社 (YFス)

少年・チポロの村に突然やってきた魔物たち。その魔物に姉のように慕う幼なじみのイレシュがさらわれてしまう。時間が経つと、村人たちはこのことを忘れていくが、チポロは決して忘れることはなかった。やがて、彼は一人でイレシュを探す旅に出る。アイヌの神話をもとにした冒険物語。



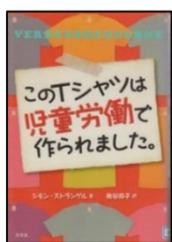
「園芸少年」
 魚住直子／著 講談社 (YFウ)

高校に入学した^{たつや}達也は、なりゆきで園芸部に入ってしまう。ほかの部員は、同級生の不良みたいな大和と、段ボール箱をかぶったまま学校へ来ている^{しょうじ}庄司。この三人での園芸部の活動が始まる。



「このTシャツは児童労働で作られました。」
 シモン・ストランゲル／著 汐文社 (Y949コ)

エミーリアは買い物に訪れたファストファッション店で、値札に勝手にシールをはっていた少年を見かける。そのシールには「このTシャツは児童労働で作られました。」と書かれていた。これを見た彼女は児童労働に興味を持つようになる。



「ぼくが宇宙人をさがす理由」
 鳴沢真也／著 旬報社 (Y440ボ)

兵庫県にある天文台の研究者で、「SETI」と呼ばれる地球外知的生命探査の研究もしている著者は、2010年に世界15カ国が参加した大規模なSETI観測でプロジェクトリーダーを任せられます。そんな著者の幼少期からこの大きなプロジェクトを実現させるまでを紹介します。



「あなたのたいせつなものはなんですか？」
 山本敏晴／写真・文 小学館 (302ア)

カンボジアに暮らす子どもたちに「あなたのたいせつなものは、なんですか？ それを絵に書いてください」と著者が問いかけてみました。さて、子どもたちからはどんな答えが返ってきたのでしょうか。



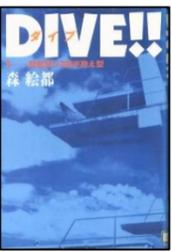
「夜間中学へようこそ」
 山本悦子／著 岩崎書店 (YFヤ)

ゆうなと76歳の祖母は、そろって今年から中学1年生になった。戦争のときの混乱で中学に通えなかったため、祖母は夜間中学へ入学することを決めたのだ。そこへゆうなも付きそいで通り、年齢や国が違う祖母のクラスメイトたちと交流をする。



「ダイブ 全4巻」
 森 絵都／著 講談社 (YFモ)

中学生の^{ともき}知季は飛び込み競技をしている。しかし、練習をしているダイビングクラブは赤字が続き、存続の危機がささやかれていた。そこを立て直すために新しい女性コーチがやってくる。彼女の指導に戸惑いながらも、知季は高飛び込みと真剣に向き合ようになっていく。



「みどいのゆび」
 モーリス・ドリュオン／作 岩波書店 (Y953ミ)

チトは裕福な家に生まれ、何不自由なく暮らしていました。あるとき、自分のおやゆびが種にさわると、たちまち花を咲かせてしまうという不思議な力があることに気が付きます。チトはこの力を貧しさや、病気、戦争で苦しむ人たちのために使おうと考えます。



「さがしています」
 アーサー・ビナード／作 岡倉禎志／写真 童心社 (Eサ)

広島に原爆が落とされ、持ち主をなくしてしまった「モノ」たち。それらからは、どんな声が聞こえてくるのでしょうか。



「道しるべ」
 瀬戸内寂聴／著 講談社 (Y910ミ)

太平洋戦争や東日本大震災という大きな出来事を経験した著者が、若い人たちへおくる「道しるべ」の言葉です。



「100万回生きたねこ」
 佐野洋子／作・絵 講談社 (YEサ)

